



□は方向案の柱、赤字は事務局側での記載事項です。黄色網掛け箇所が第3回地区別懇談会における参加者の主な意見です。（※決まった内容や事実確認をした内容ではありません）

意見集約のキーワード （復興計画の3つの柱）	地区の主な課題 （地区の復興まちづくりに向けた主な課題）	取組み方針 （課題解決のための取組み方針の柱）	具体的取組み（案） ※実現化に向け、今後検討が必要
①被災者のくらし再建と コミュニティの再生 【住まい再建】 【コミュニティ再生】	□住まいの再建にあたっての方向性が必要 ・被害を受けた所は平等に支援があるようにしてほしい。 □集会所とコミュニティの再生が必要 ・直売所の運営により、顔が見える関係性を構築してきたが、運営側が高齢化している。助け合いながら続けたい。【下林・中林】 ・公民館以外のコミュニティの場として、デイサロンや直売所などがある。【下林・中林】 ・グラウンドゴルフや運動会など町会対抗スポーツ大会やお祭りなどの行事が多くある。【下林・中林】	□住まいの再建における安全性の向上 ・既に再建している家もありまちづくりが動いている。発災後1年経つ今から決めてできるのか？市の動きが遅い。発災3ヶ月後ぐらいに、皆が動く前に具体的な方針を示しておくべきだった。今からは、球磨川に浸水させない人吉づくりに重点を置くべき。【温泉町】 □集会所の再建とコミュニティの再生 ・何十年と培ってきた温泉町のコミュニティを復旧して欲しい。温泉町のメインは温泉。いち早く復旧して欲しい。老人福祉センターの施設を直した上で、地元で運営できないか。温泉町町内会で指定管理者になれないか。次回、担当課にも来て欲しい。どうすればできるか。【温泉町】	□安全性を高める建て方の誘導 ・やるのであれば地区全体に5m以上は高上げする必要があるが、非現実的。【温泉町】 ・高上げや移転などに対する公的助成はあるのか？ ・沢を埋めるのは危険。尾根は削って良い。地形をしっかり見分けるべき。 ・個人的には土地の高上げも堤防の高上げも無理だと思う。 ・皆で考えるのは有難いが、時間もお金もかかる。できない事ばかりに見える。次に何かあれば他所へ脱出する。 □コミュニティの核としての集会所の再建 ・世帯が減っている。迷っている人もいる。知らない情報も多い。できるだけ情報開示をしてほしい。 ・ピロティ構造にしていたが浸った。油断していた。それぞれの現実をふまえて。 ・身近に情報を提示して欲しい。一部の地域だけ恩恵を受けるのではなく平等に。 ・公民館の再建。【下林・中林】 ・[改修済:下林前村町会、下林仮屋町会、中林町会][改修中:下林後村町会]（上林町会は被害なし） ・今後も様々な行事を継続していくことで町内のつながりを深める。【下林・中林】 ・老人会を設立し、新たな行事も行う。【中林】
②力強い地域経済の再生 【生業再建】	□地域の温泉と観光の再生 ・一番泉質が良い。【温泉町】 □早急な農地の再生 ・農業者が高齢化し、集まって話ができない。現状復旧しかできず、営農できない。【温泉町】	□観光資源である“温泉”を活かしたまちづくり □農地の再生による生業の再建 ・農業関係の用水路等に残るがれき等はさらってほしい。【温泉町】	□観光資源としての温泉の復活 □農地の再生 ・30町歩で協力して田んぼダムを進めてはどうか。小さいことから解決する。【温泉町】
③災害に負けない まちづくり 【避難対策】	□安全な避難ルートの確保 □避難施設の確保・改善 □適切な情報発信 □避難時に機能する仕組み・体制の構築 ・新しい連絡体制に課題がある。【下林・中林】 ・樋門係から住民への情報伝達の仕組みづくりが必要。【下林・中林】 ・民生委員への防災情報伝達の仕組みを再度周知する（以前の方法と変更がある）。【下林・中林】	□安全な避難路の整備 ・逃げるための道路を拡げる。【温泉町】 □避難所の機能拡充 □緊急避難場所の整備 □適切な情報発信の実施 □全員が避難できる仕組みづくり ・温泉町は何をどうしても浸かる所であり、逃げるしかない。 ・今回経験しておおよそわかるので1日前に逃げる。【温泉町】	□村山公園への避難路の整備 ・避難先は村山しかない、という意識が皆にあるため、集中して渋滞する。【温泉町】 ・避難地として錦町のイオンの方が良い。【温泉町】 ・皆が安全に避難できるように避難場所をしっかり確保する。【温泉町】 ・地域のこたを受け入れるしかない。早く避難するために、早く情報を出してほしい。【温泉町】 ・スポーツパレスから村山までの避難路の拡幅。【下林・中林】 □安全な避難場所の整備 □防災情報の伝達機能強化 ・上流の降雨量情報も合わせて知らせると、よりインパクトがあり、避難時の判断材料になる。 ・地域のつながりをつくり、連絡体制を確保する。まずは顔見知りになる。【下林・中林】 □地域特性を踏まえた地区防災計画、マイ・タイムラインの作成 ・国が出した千年に一度という想定最大規模のハザードマップは恐怖心をあおるだけで、避難ルートも示されていない。 ・市は避難にネックとなる箇所をチェックし管理すべき。道路にはみ出た樹木の管理が不十分。 ・消防団を頼る。高齢者同士の助け合いが難しい。【温泉町】 ・会長をはじめ、誰が誰を避難させるか。助け合いのシステムが必要。【温泉町】
【治水・土砂災害対策】 ・今回の水害の根本の原因は球磨川の渡から水が押し戻されたことであり、球磨川の流れによる被害ではないのでは？	□小河川の氾濫 ・ポンプ場修理に2年かかる。電源も未復旧。 ・福川の堤防が球磨川の堤防より低い。 ・用水路から溢れた。【温泉町】 □球磨川の治水対策 ・昭和40年から5回浸水している。中原小学校に避難した。 ・流木が鉄道橋で堰き止められ錦町、相良村から一気に溢れた。【温泉町】	□小河川の氾濫対策の推進・促進 □流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下 ・治山についても決めるべき。伐採後の植林の義務化等。道路を造って山へ上がっているが、道路が川になる。 ・市が負担するのではなく、河道をさうなど、国にやってもらえることをする。	□小河川の氾濫対策の推進・促進 □流域治水プロジェクトによる本川・支川の水位の低下 ・渡付近にトンネルを掘り、流れをバイパスさせるか、球磨川を3倍に広げれば、水害に遭わない。60年前に静岡でバイパスを造っている。 ・球磨川の堤防を80cm～1.5m高くし、河床を掘削し低くする。それでもダメなら、球磨川の流量を他に分け、時間を稼ぐ。 ・溜まった土砂を取り除く。 ・市房ダムの管理状況やデータについて、皆にわかるように公表して欲しい。

・懇談会に来る毎に、お土産の話を持って帰れるようにしてほしい